

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H00528

研究課題名（和文）国際協働による東アジア古典学の次世代展開 文字世界のフロンティアを視点として

研究課題名（英文）Evolution for the Next Generation of East Asian Classical Studies through International Collaboration

研究代表者

齋藤 希史（Saito, Mareshi）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授

研究者番号：80235077

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 38,230,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、東アジアに展開された古典世界について、漢字文以外の書記も含めた多様な事象を検討しつつ、書記表現という視点からその構造を明らかにし、研究領域としての「東アジア古典学」の方法の可視化を推進し、また、次世代への継承のための研究拠点形成としてセミナー等を継続的に開催し、関連文献やデータの整備を行なった。とりわけ、最新の成果を研究方法の実践へと結びつけるセミナーや次世代研究者の発表と討議を中心としたワークショップ等の総計40回にわたる開催、それにもとづいた多くの論文・著書の発刊、日本の漢字文を学ぶための英語教材のドラフト作成および実験授業の開催は、今後の展望を開く重要な成果と言える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、東アジアという圏域が漢字という文字およびそれによって書き記された書籍の流通圏として成り立った古典世界を基盤として成立したことをふまえつつ、たんなる影響や伝播ではない文化現象のダイナミズムが古典によって生まれたことを、6世紀から20世紀にいたるまでを視野に入れて、明らかにしたところにある。

また、その研究を広く共有するための方法論の可視化を進め、大学院生も交えた国内外のセミナー、それにもとづいた論文や著書の公刊、さらに英語圏の大学院教育で用いる漢文テキストブックの共同編纂とそれをを用いた実験授業等によって、国際レベルでの次世代研究者の育成にも大きく寄与した。

研究成果の概要（英文）：The project aims to elucidate the classical world in East Asia, examining diverse phenomena, including scripts other than Chinese characters, from the perspective of written expressions. It seeks to promote the methodologies of "East Asian Classical Studies" and establish a foundation for its continuity into the next generation. We have held seminars and workshops, organized literature and data, and conducted various activities to achieve this. Notable outcomes include (i) organizing 40 seminars and workshops focused on applying the latest research methods and facilitating next-generation researcher presentations and discussions, leading to numerous publications; and (ii) drafting English educational materials for learning Japanese Kanbun and conducting experimental classes, which are essential achievements paving the way for upcoming advancements.

研究分野：中国古典詩文・東アジア古典学

キーワード：東アジア古典学 文字世界 書記表現 漢字文

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「東アジア古典学」を掲げるこれら一連の共同研究が生まれた背景には、人文学分野全般において、民族や国民を単位とする文化観念によってさまざまな事象を捉えるという近代パラダイムが批判されてすでに久しいにもかかわらず、東アジアの古典研究においては、批判は共有されつつも、それとは異なるアプローチがなお構築途上にあるという状況があった。

改めて確認すれば、前近代の東アジアでは、近代国家の枠組みを遡らせた地域の枠組みにおいて個別に読み書きの実践が行われ、継承されたのではない。中国大陆で先導的に形成されていた古典世界を起点としつつ、インドシナ半島・内陸アジア・朝鮮半島・日本列島にいたる広い地域において、共通の文字（漢字）共通の文章語（漢文）によるゆるやかな圏域が形成され、その中でリテラシーの基盤が共有され、それぞれに拡張が行われていたのである。当然のことながら、各地域で独自の読み書きの世界は形成されたが、それと同時に、リテラシーを共有することで作られる大きな圏域が構成されたのであった。

この圏域において現れたさまざまな事象は、各国固有の文化を前提とした影響や受容といった枠組みではその実相の複雑さをとらえることはできない。近代パラダイム批判を踏まえた上で、どのようなアプローチがありうるのか、それによって学術的な視野はどのように開かれ、漢字による古典を中核とする東アジアの読み書きの世界の構造と歴史をどのように記述しなおせるのか、それらが本研究へと継承される大きな課題であり、「東アジア古典学」という枠組みは、その課題を解くために構想された。

2. 研究の目的

本研究の掲げる「東アジア古典学」とは、東アジアに展開された古典世界を、おもに漢字文による書記という観点から、その構成原理を解明し、多様な現象を記述することを目的とする。本研究は、日本・北米・アジア地域の中堅・若手の研究者を中心とした「東アジア古典学」の研究拠点を形成し、各地域の大学院教育へのフィードバックを積極的に行うことで、次世代の「東アジア古典学」を構築しようとするものである。具体的には、漢字漢文の流通した東アジア全体を視野に入れた書記史・文学史の先端的な共同研究と次世代研究者養成のための高度な漢文読解能力養成を目的とした大学院教育とを相互に関連させた国際連携による研究・教育を、集中セミナーや教科書編纂などによって具体化し、実践する。

3. 研究の方法

第一に、「書記表現」という観点から、分析のための理論と方法を広く取り上げ、また討議し、漢字文の読み書きを起点とする東アジア古典世界をどのように認識するかという問いに照らしつつ、分析手法としての有効性を検討し、第二に、分析手法の検証と並行して、東アジアで共有され拡張された読み書きの基盤の実態と歴史を、新たな書記表現史の叙述を通じて具体的に明らかにし、第三に、成果の応用として、前近代の東アジアにおける読み書きの学習の実際に即しつつ、それを応用した、新しい古典教育・学習プログラムと教科書を、国内外で共有できるように作成作業を進め第四に、研究環境の構築として、「東アジア古典学」を将来的にも学際的・国際的に推進していくことを可能にする広範な連携を構築・維持することを方法とした。

4. 研究成果

以下の 5 項目を軸に活動し、いずれも所期の目標を達成することができた。

- 1) 国際セミナーの継続開催による「東アジア古典学」の拠点形成。
- 2) 次世代研究者の発表と討議を中心としたワークショップの開催による次世代育成。
- 3) 「東アジア古典学」具体化の一環として、教育プログラムに対応した教材作成と刊行を促進。
- 4) 3) で編集された教材・著作のドラフト等を試行・活用した実践的なセミナーの開催。
- 5) 研究会の記録の公開。

具体的には、1) として、「東アジア古典学の方法」「著者と語る」「書誌学実習」の 3 つのセミナーを行った。「東アジア古典学の方法」は共同研究の軸となるセミナーであり、2019 年度から最終年度の 2023 年度までの 5 年間に、通算 18 回開催した。国内では東京大学、国外では北京大学と台湾大学、またオンラインで開催の機会を得て、主に東アジア地域と北米を活動拠点とする研究者と、「東アジア古典学」という問題意識を共有するにいたった。

研究会のテーマは「文字世界のフロンティア」(2019 年 11 月 9 日、齋藤希史、田村隆、徳盛誠

[東京大学] 金沢英之[北海道大学] 道坂昭廣[京都大学]、「『国書』の起源』をめぐって」(2020年2月21日、品田悦一[東京大学]、「近代日本の文脈と文体」(2021年3月25日、齋藤希史[東京大学]、「『古事記』の漢字表現 『日本書紀』との比較を通じて」(2021年10月15日、馬場小百合[帝京大学]、「日本と中国の宴席賦詩の序の変遷」(中国語題：中日宴席賦詩序の変遷)(2022年12月1日、道坂昭廣[京都大学]、「表出される世界」(2022年1月29日、齋藤希史、田村隆、徳盛誠[東京大学] 金沢英之[北海道大学] 道坂昭廣[京都大学]、「『東アジア古典学の方法』国際シンポジウム」(2023年11月22日、齋藤希史、田村隆、徳盛誠[東京大学] 金沢英之[北海道大学] 道坂昭廣[京都大学] 陳明、丁莉[北京大学]など)など、多岐にわたる。参加者は、日本・台湾・中国等で東アジア古典学を学ぶ研究者や大学院生を中心とするが、具体的な資料読解の方法と習得から、理論構築を目指した問題意識の共有まで、多様な形態で研究会が開催され、参加者からも高い評価を得た。とりわけ、台湾大学と北京大学においては、それぞれの大学院教育プログラムに大きく貢献するものとして、継続開催の希望が出される等、その重要性が確かめられた。

「著者と語る」は「東アジア古典学」の分野で活躍する第一線の研究者を招いて、その著作を軸に若手研究者との間で対話を行うものであり、2022年に澤崎文『古代日本語における万葉仮名表記の研究』(塙書房、2020年)を扱った。若手研究者をディスカッサントとして問題意識を共有しながら、東アジア古典学の新たな研究や方法について議論が行われた他、著者に直接質疑できる貴重な機会であることから参加者からも活発な質疑が行われた。

「書誌学実習」は「東アジア古典学」の基盤となる書誌学(書物学)の手法と視点を共有するセミナーとして、おもに大学院生を対象とした実習を慶應義塾大学附属研究所斯道文庫の佐々木孝浩教授に協力を仰いで実現した。書誌学の体系的な説明を受けながら、斯道文庫に所蔵された実際の古典籍によって理解を深めるもので、2019年に1回開催した後、感染症流行のため開催を見送り、緩和した2023年に2回、合計3回開催した。

2)としては、「次世代ロンド」という名称で東京大学、京都大学及びオンラインを会場として5年間で28回開催することができた。大学院生やポスドク、助教、講師などの若手研究者から発表者及びコメンテーターを募り、自らの所属機関以外の場所での発表を奨励するのが特徴であり、所属機関の枠を超えた研究交流が推進された。

3)及び4)として、英語圏の漢文学習者向けのテキスト作成のプロジェクトを推進した。David Lurie、Torquil Duthie、小野桂子[Princeton University]、Christina Laffin[University of British Columbia]の各氏に執筆協力を依頼し、テキストの構成や取り扱う文献、執筆担当箇所などの打合せを行ってきた。なお、全てのセミナー及びプロジェクトについては、後継プログラム「思考のための注釈：東アジア古典学の革新に向けて」に引き継がれている。

5)として、2017年度より全てのセミナーで参加者に当日レポートの執筆を依頼し、中英韓の三カ国語に翻訳してHPで公開した。当日レポートの執筆・公開によって、セミナーの様子や成果、また受講者の感想や収穫を共有することが可能となっている。これらの研究会・講演・ワークショップ・会議の記録は随時ホームページ上に掲載され、参加者が共有するグループウェアにおいて資料も共有された。

なお、本科研における討議や発表にもとづいて生み出された著書・論文も多い。以下の「5. 主な発表論文等」に記載した著書・論文等はその主要なものにすぎないが、「東アジア古典学」の射程の広がりを示している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 SAITO Mareshi	4. 巻 125
2. 論文標題 Reverie and the Landscape:Up Until the First Part of the Eastern Chin	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ACTA ASIATICA	6. 最初と最後の頁 21-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣（門賜双訳）	4. 巻 13
2. 論文標題 《王勃集》卷廿八所収墓誌銘與出土的唐代墓誌・補遺》	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 《国際中国文学研究叢刊》	6. 最初と最後の頁 6-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣	4. 巻 1
2. 論文標題 「王勃撰『唐趙士達墓誌』注釈（上）」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『東アジア文明論講座紀要』	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳盛誠	4. 巻 28
2. 論文標題 「一条兼良『日本書紀纂疏』の成り立ち 「旧説」をめぐって」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『超域文化科学紀要』	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢英之	4. 巻 51巻16号
2. 論文標題 「『靈の真柱』の世界像 宣長・中庸から薫胤へ」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 264-274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村隆	4. 巻 第60輯
2. 論文標題 「「光君」と「光源氏」」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『むらさき』	6. 最初と最後の頁 86-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤希史	4. 巻 41巻2号
2. 論文標題 訓読体：近世から近代へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 pp.156-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場小百合	4. 巻 第54号
2. 論文標題 『日本書紀』散文部と歌との接続の問題について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『帝京大学文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 111-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣	4. 巻 3
2. 論文標題 江戸時代後期日本人対漢詩の認識 以津坂東陽《夜航詩話》為線索	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東亜唐詩学研究論文集	6. 最初と最後の頁 228-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣	4. 巻 3
2. 論文標題 従王勃佚文墓誌和出土唐代墓誌中句子的使用来考察唐代前半期文学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 南洋中華文学与文化学報	6. 最初と最後の頁 33-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢 英之	4. 巻 169
2. 論文標題 『聖徳太子十七憲章并序註』について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北海道大学文学研究院紀要	6. 最初と最後の頁 67～97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14943/bfhhs.169.r67	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢英之	4. 巻 98-7
2. 論文標題 『日本書紀』仁徳天皇と磐之媛皇后の問答歌をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村隆	4. 巻 870
2. 論文標題 「『源氏物語』と地図」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 図書	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村隆	4. 巻 130・131
2. 論文標題 「王昭君説話の語り方」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 語文研究	6. 最初と最後の頁 102-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村隆	4. 巻 58
2. 論文標題 「昭和七年の「源氏物語に関する展覧会」をめぐる」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 むらさき	6. 最初と最後の頁 4-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣	4. 巻 7
2. 論文標題 『王勃集』卷廿八所収墓誌と出勤唐代墓誌・補遺	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国典籍日本古写本の研究の精密化と国際的情報発信 Newsletter	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳盛誠	4. 巻 2022年1月号
2. 論文標題 「参入するテキスト 一条兼良の『日本書紀』「神代」解釈」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 36-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤希史、辺明江 (訳)	4. 巻 1
2. 論文標題 漢文与巫州 岡本監輔的軌跡与意图	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際中国学論叢 (世界図書出版公司北京公司)	6. 最初と最後の頁 81-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村隆	4. 巻 25号
2. 論文標題 「ブッチール像とアリヴェー像」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 超域文化科学紀要	6. 最初と最後の頁 123-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤嘉惟・川下俊文・鶴田奈月・皆川梨花・金斗成・田村隆	4. 巻 38号
2. 論文標題 「『若草源氏物語』研究ノート 近世俗語訳の諸相」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較文学・文化論集	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 馬場小百合	4. 巻 27
2. 論文標題 「『古事記』軽太子と軽太郎女譚 物語の構造と歌の役割について」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『帝京日本文化論集』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣	4. 巻 29
2. 論文標題 「《王勃集》的編纂時期 以日本傳存《王勃集》卷三十所収《族翁承烈致祭文》為中心」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 香港浸会大学《人文中国学報》	6. 最初と最後の頁 27 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣	4. 巻 17
2. 論文標題 「正倉院蔵王勃詩序校証(下)」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 《歴史文化社会論講座紀要》	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣	4. 巻 8
2. 論文標題 「關於正倉院王勃詩序的“發見”」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 《國際中国文学研究叢刊》	6. 最初と最後の頁 56 - 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣	4. 巻 6
2. 論文標題 「吉田聆濤閣と『王勃集』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国典籍日本古寫本の研究 Newsletter	6. 最初と最後の頁 7-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣・樊昕訳	4. 巻 21
2. 論文標題 「《王勃集》佚文中の女性墓誌與出土墓誌－王勃作品流行的痕迹」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 《國際漢學研究通訊》	6. 最初と最後の頁 65 - 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣	4. 巻 15
2. 論文標題 「王勃《陸録事墓誌》の斷簡について」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 《敦煌寫本研究年報》	6. 最初と最後の頁 35 - 50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢英之	4. 巻 69-5
2. 論文標題 「『書紀集解』のひらくもの」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本文学』	6. 最初と最後の頁 12-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金沢英之	4. 巻 60
2. 論文標題 「神功皇后紀をめぐる内外のコンテキスト」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『古代文学』	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TOKUMORI Makoto	4. 巻 Vol. 2, No. 4
2. 論文標題 'Formative and Alternative Reading of Scripture: Ichijo Kaneyoshi's Interpretation of the Nihon shoki in the Fifteen-Century Japan'	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Comparative Literature (国際比較文学)	6. 最初と最後の頁 671-683
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳盛誠	4. 巻 83号
2. 論文標題 「一条兼良『日本書紀纂疏』の「離陸」クニノトコタチをめぐる」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊日本思想史	6. 最初と最後の頁 82-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣	4. 巻 664号
2. 論文標題 「『王勃集』佚文中の女性の墓誌と出土墓誌 王勃作品流行の痕跡」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『立命館文学』	6. 最初と最後の頁 168-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道坂昭廣	4. 巻 17号
2. 論文標題 「正倉院蔵王勃詩序校証（下）」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『歴史文化社会論講座紀要』	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤希史	4. 巻 2019-4
2. 論文標題 もうひとつの興趣：成島柳北の漢詩から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学会会報	6. 最初と最後の頁 66-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 16件）

1. 発表者名 道坂昭廣
2. 発表標題 「王勃和楊炯筆下の陶淵明形象」
3. 学会等名 第二屆東亜唐詩学国際學術研討会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 馬場小百合
2. 発表標題 『古事記』における歌曲名表記
3. 学会等名 東アジア古典学の方法 第93回
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 道坂昭廣
2. 発表標題 「《懷風藻》序、傳用典考」
3. 学会等名 北京論壇2023（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 道坂昭廣
2. 発表標題 「興膳宏先生の世界をふりかえる「創作技法論の展開 『『文心雕龍』から『文鏡秘不論』へ』」
3. 学会等名 六朝学会第二十七回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 徳盛誠
2. 発表標題 「日本書紀講書から『日本書紀纂疏』へ テキストの核心としての「神道不測」」
3. 学会等名 東アジア古典学の方法 第93回 文字世界と注釈
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 齋藤希史
2. 発表標題 遐想と山水 東晋期を中心に
3. 学会等名 第66回国際東方学会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 徳盛誠
2. 発表標題 水源に向かって歩く 青陵の『書経』「洪範」解釈
3. 学会等名 東京大学ヒューマニティーズセンター第77回オープンセミナー「海保青陵は動く 江戸後期の異色の儒者を捉え直す二つの視点」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 馬場小百合
2. 発表標題 『日本書紀』散文部と歌との接続の問題について
3. 学会等名 東アジア古典学の方法 第78回
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 道坂昭廣
2. 発表標題 从王勃佚文墓志和唐代出土墓志中句子的使用看唐代前半期文学
3. 学会等名 南洋理工大学 南大中華文学与文化講座13(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 道坂昭廣
2. 発表標題 圍繞《王勃集》卷二十九的疑問
3. 学会等名 第六届漢文写本研究學術論壇暨中国典籍古写本文献研究(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 道坂昭廣
2. 発表標題 海西と海東の『王勃集』
3. 学会等名 第18回京都大学人文科学研究所TOKYO漢籍 SEMINAR
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田村隆
2. 発表標題 「王昭君と日本古典文学」
3. 学会等名 台湾大学セミナー（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 馬場小百合
2. 発表標題 『古事記』允恭天皇条の物語構造と歌の役割について
3. 学会等名 東アジア古典学の方法 第66回
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 馬場小百合
2. 発表標題 「『古事記』の漢字表現 『日本書紀』との比較を通じて」
3. 学会等名 東アジア古典学の方法 第67回北京大学セミナー（1）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 道坂昭廣
2. 発表標題 初唐的序
3. 学会等名 東亜唐詩學國際學術論壇（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 道坂昭廣
2. 発表標題 南北朝的謝啓
3. 学会等名 中國文學「典律化」流變的反思國際研討會（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 徳盛誠
2. 発表標題 「変容するテキストとしての『日本書紀』 十五世紀までの事例をめぐって」
3. 学会等名 東アジア古典学の方法 第69回 北京大学セミナー（2）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 徳盛誠
2. 発表標題 「中世の『日本書紀』解釈における思想変動 一条兼良『日本書紀纂疏』を中心に」
3. 学会等名 第47回HMCオープンセミナー（東京大学ヒューマニティーズセンター主催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田村隆
2. 発表標題 「東大本『源氏物語』と「デジタル源氏物語」」
3. 学会等名 第6回日本語の歴史的典籍国際研究集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田村隆
2. 発表標題 「狩野亨吉文書の清国留学生資料」
3. 学会等名 EAA国際シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金沢英之
2. 発表標題 「『日本書紀』の引書注をめぐる---巻九神功皇后紀を中心に」
3. 学会等名 古代文学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 TOKUMORI Makoto
2. 発表標題 'East Asia Within: One Literary Man's Commentaries in Fifteenth-Century Japan'
3. 学会等名 The 21st Congress of the International Comparative Literature Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TOKUMORI Makoto
2. 発表標題 ‘ The Acquisition of Worldviews in Early Japan
3. 学会等名 The 21st Congress of the International Comparative Literature Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 徳盛誠
2. 発表標題 「日本書紀注釈における和語の役割」
3. 学会等名 東アジア古典学の方法 第59回 文字世界のフロンティア
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 馬場小百合
2. 発表標題 「『日本書紀』の歌における仮名表記の問題」
3. 学会等名 東アジア古典学の方法第59回 文字世界のフロンティア
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 道坂昭廣
2. 発表標題 王勃駢文考 蜀滞在時期の作品を中心に
3. 学会等名 東方学会 (国際東方学会議) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 道坂昭廣
2. 発表標題 正倉院藏王勃詩序校証(下)
3. 学会等名 東北亞漢文寫本研究的過去與未來學術研討會;第五屆寫本論壇(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 道坂昭廣
2. 発表標題 王勃為女性所作墓誌與出土墓誌 - 對於唐代文學基盤的一個推測 -
3. 学会等名 駢文國際學術研討會;第六屆中國駢文學會年會(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤希史
2. 発表標題 文明の翻訳:近代東アジアにおける「漢」と「洋」
3. 学会等名 第20回延世大学校近代韓国学研究所國際學術大会(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2019年

〔圖書〕 計20件

1. 著者名 齋藤希史、田口一郎	4. 発行年 2024年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 240
3. 書名 漢文の讀法 史記 遊俠列伝	

1. 著者名 矢木毅・永田知之・道坂昭廣	4. 発行年 2024年
2. 出版社 研文出版	5. 総ページ数 110
3. 書名 『続・漢籍の遥かな旅路 日本への旅路 (京大人文研漢籍 세미나10)』	

1. 著者名 田村隆 (編・解説)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 角川ソフィア文庫	5. 総ページ数 208
3. 書名 『源氏愛憎 源氏物語論アンソロジー』	

1. 著者名 日本漢字学会 (項目「近代の漢文」を齋藤が執筆)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 643
3. 書名 漢字文化事典	

1. 著者名 西田 太郎、齋藤 希史、齋藤 希史、田口 一郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 K A D O K A W A	5. 総ページ数 736
3. 書名 漢文の語法	

1. 著者名 姜尚中、青山 亨、伊東 利勝、小松 久男、重松 伸司、妹尾 達彦、成田 龍一、古井 龍介、三浦 徹、村田 雄二郎、李成市	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 728
3. 書名 アジア人物史 第2巻 世界宗教圏の誕生と割拠する東アジア	

1. 著者名 齋藤希史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 320
3. 書名 『漢文ノート：文学のありかを探る』	

1. 著者名 山口和紀・齋藤希史・星埜守之・網野徹哉・田村隆・岡田晃枝・中村長史・平岡秀一・ジエーゴ・タヴァレス・ヴァスケス・吉田壘・栗田佳代子・小原優貴・福山祐樹・伊勢坊綾	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 199
3. 書名 『東京大学のアクティブラーニング』	

1. 著者名 齋藤希史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 313
3. 書名 漢文ノート	

1. 著者名 齋藤, 希史 Defrance, Arthur Robert, Jean-Noel	4. 発行年 2021年
2. 出版社 College de France, Institut des hautes etudes japonaises	5. 総ページ数 134
3. 書名 Qu'est-ce que le monde sinographique? : Quatre conferences du Professeur Saito Mareshi au College de France	

1. 著者名 定松淳・江間有沙・キハラハント愛・井上彰・石井剛・受田宏之・アルヴィ宮本なほ子・鶴見太郎・田村隆・森元庸介・郷原佳以・広瀬友紀・村松真理子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 202
3. 書名 異なる声に耳を澄ませる	

1. 著者名 柳井 滋、室伏 信助、大朝 雄二、鈴木 日出男、藤井 貞和、今西 祐一郎、今井 久代、陣野 英則、松岡 智之、田村 隆	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 686
3. 書名 源氏物語 早蕨-浮舟	

1. 著者名 齋藤希史(盛浩偉譯)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 群學出版	5. 総ページ数 424
3. 書名 「漢文脈」在近代 : 中國清末與日本明治重疊的文學圈	

1. 著者名 Mareshi Saito; Ross King(ed.), Christina Laffin(ed.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 231
3. 書名 Kanbunmyaku : The Literary Sinitic Context and the Birth of Modern Japanese Language and Literature	

1. 著者名 日本思想史事典編集委員会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 718
3. 書名 日本思想史事典(「漢文脈で読む明治」項目執筆)	

1. 著者名 神野志 隆光、金沢 英之、福田 武史、三上 喜孝	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 610
3. 書名 新釈全訳 日本書紀 上巻(巻第一～巻第七)	

1. 著者名 柳井滋・室伏信助・大朝雄二・鈴木日出男・藤井貞和・今井久代・陣野英則・松岡智之・田村隆	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波文庫	5. 総ページ数 653
3. 書名 『源氏物語 五』	

1. 著者名 柳井滋・室伏信助・大朝雄二・鈴木日出男・藤井貞和・今井久代・陣野英則・松岡智之・田村隆	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波文庫	5. 総ページ数 514
3. 書名 『源氏物語 六』	

1. 著者名 品田 悦一、齋藤 希史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 240
3. 書名 「国書」の起源	

1. 著者名 松田浩、上原作和、佐谷真木人、佐伯孝弘 編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 古典文学の常識を疑う	

〔産業財産権〕

〔その他〕

http://eacs.c.u-tokyo.ac.jp/ja/ EACS: 国際協働による東アジア古典学の次世代展開

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	道坂 昭廣 (Michisaka Akihiro) (20209795)	京都大学・人間・環境学研究所・教授 (14301)	
研究分担者	金沢 英之 (Kanazawa Hideyuki) (00302828)	北海道大学・文学研究院・教授 (10101)	
研究分担者	徳盛 誠 (Tokumori Makoto) (00272469)	東京大学・大学院総合文化研究科・講師 (12601)	
研究分担者	田村 隆 (Tamura Takashi) (70432896)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	馬場 小百合 (Baba Sayuri) (30823174)	帝京大学・文学部・助教 (32643)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐々木 孝浩 (Sasaki Takahiro)	慶應義塾大学・斯道文庫・教授 (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 “東アジア古典学の方法”国際シンポジウム	開催年 2023年～2023年
--------------------------------	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	コロンビア大学	プリンストン大学	
カナダ	ブリティッシュコロンビア大学			
中国	北京大学			
その他の国・地域	台湾大学			